第４７５回鉄鋼流通問題懇談会

２０２６年１０月２１日（水）１４：３０
茅場町「鉄鋼会館４階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

議　題

１．配布資料説明（全鉄連）
２．全鉄連情勢報告
（１）地区の状況
○東京（鉄流懇・提出資料参照）
○東京、大阪、東北、新潟、北陸地区概況報告
（２）総括：井上全鉄連会長
３．意見交換
４．テーマ「人材確保について」（採用・離職率低下に向けた取り組み等）
５．総括：赤木鉄流懇会長
６．次回会議予定
２０２７年1月２８日（木）１４：３０～　　於：茅場町「鉄鋼会館４階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」
次回テーマ：「鉄鋼業界におけるＡＩの活用について」（作業・業務の効率化等）

鉄鋼流通問題懇談会　品種別動向について（２０２６年１０月）

※ゴシック太字部分は既に公表している箇所

発表項目＼発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	ＪＦＥ商事	日鉄物産
１．需給動向（景況感）	(店売り分野) 一般店売り分野は、荷動きの低調が継続している。建築関連では好調な半導体、DC 関連を中心に 2027 年１月以降の荷動き回復が期待されている。市況については、昨年 12 月以降、高炉をはじめ各社で値上げが発表され、市況の上昇が継続している。鋼管流通各社も再販価格の値上げを進めているが、一般構造用炭素鋼鋼管等の一部品種では荷動きの低調もあり値上げが遅れている。ステンレス管も同様に昨年末以降の値上げ・市況上昇が継続しているが足元一服感がある状況。	**2026 年 8 月末の国内向け薄板 3 品在庫は、3 カ月ぶりのプラスで、3 月以来の 400 万トン台の 405.1 万トンとなり先月比+15.5 万トン、メーカー在庫が 179.4 万トンで、前月末+9.6 万トン, 問屋在庫は 79.9 万トン, +3.9 万トン, コイルセンター在庫が 145.9 万トンで、前月比+2.0 万トンであった。** **8 月単月の在庫率は、全体で 3.08 カ月、品種別では、熱延が 3.47 カ月、冷延が 3.55 カ月、表面処理が 2.43 カ月となった。。**	**【造船】**国内造船所の手持工事量は高水準を維持しており、商談は 2030 年前後の納期案件が中心。中国・韓国との競争は継続するものの、LNG 船、防衛関連、エネルギー関連船舶が需要を支えている。**【建築】**民間建築は人手不足、建設コスト上昇の影響が継続。物流倉庫、データセンター向け大型案件は堅調だが、中小建築案件は低調**【建機】**北米向け建機需要は底堅く推移。データセンター建設、資源開発、エネルギー関連投資が下支え要因。**【産機】**原子力再稼働対策工事、電力インフラ更新案件、GX 関連投資が継続。一方で一般産業機械は案件ごとの濃淡が大きい。 **【全国厚板シヤリング工業組合/2026 年 8 月実績】** ***月末在庫は 345 千トン前月比 2 千トン増（100.6%）、前年同月比 3 千トン減（99.1%）。*受入：118 千トン（前月比 80.3%）、出荷は 116 千トン（同 80.8%）*在庫率は 296.6%で 7 月の 238.2%から 58.4 ポイント上昇。⇒ 出荷減少に対して在庫が増加し、需給は緩和した状態。**	**形鋼：2026 年 8 月度の H 形鋼のときわ会ベース全国出庫量は 53.1 千ﾄﾝ（前月比▲15.4 千ﾄﾝ、前年同月比▲6.5 千ﾄﾝ）。**建設需要は人手不足や資材費上昇等から着工案件が依然低調であり足元の FAB 山積みも全国的に低位な状況。首都圏再開発等の大型案件がある一方で中小案件は依然として低い水準で推移。 **棒鋼：**関東地区 9 月の明細投入量は 16 万 7,563 t と前月比 2 倍となりプラスは 3 カ月ぶりとなった。10 月 9 日に行われた関東鉄源は先月比+3,964 円の 5 万 2,077 円での落札となった。各電炉メーカーは 10 月以降の電力代値上げや、主原料のスクラップ価格の上昇に伴い、製品単価の値上げを示しており、しばらくは強含みで推移すると思われる。
２．需要産業動向	**（建築・土木）　2026 年 8 月の新設住宅着工戸数は、前年同月比 6.1%増の 6.4 万戸で、5 ヶ月連続の増加となった。8 月としては、過去 10 年で 9 番目の水準となる。民間非居住用建築物の着工延床面積は 215 万 ㎡ と前年同月比▲8.5%となった。前年同月と比較すると店舗は増加したが、事務所、 工場及び倉庫が減少したため全体で減少となった。** **（自動車）2026 年 8 月の国内生産台数は、前年同月比▲5.9%の 48.7 万台。一方、輸出は前年同月比▲1.8%の 27.5 万台。** **（建機）2026 年 8 月の建設機械出荷金額は、内需 760 億円（前年同月比+3.9%）、外需 1,859 億円（同+5.6%）、総合計は 2,618 億円（同+5.1%）と 10 ヶ月連続の増加。** **（造船）2026 年 8 月の起工量は 11 隻、30.5 万 G/T（前年同月比▲19.0%）。**	**自動車の 2026 年 9 月の国内新車販売は、43 万 3,683 台となり前年同月比では 1.3%増となり、6 カ月連続で前年実績を上回った。内訳は、登録車が 27 万 1,900 台（前年同月比 2.5%増）、軽自動車が 16 万 1,783 台（同 0.6%減）となった。また、2026 年度上半期（4～9 月）の国内新車販売累計は 229 万 2,064 台、前年同期比 5.1%増、登録車は 150 万 4,178 台、軽自動車は 78 万 7,886 台となった。民生用電機機器の 8 月度の国内出荷金額は 2,130 億円となり、前年同月比：117.4%12 カ月連続で前年同月プラスであった。主要品目では、ルームエアコンが 893 億円（前年比 154.3%）、電気冷蔵庫が 306 億円（同 100.7%）、電気洗濯機が 301 億円（同 109.4%）であった。2026 年 8 月の新設住宅着工戸数は 63,974 戸で前年同月比+6.1%, 5 か月連続の増加となった。用途別では、持家 17,713 戸（前年同月比+1.0%）、貸家 28,309 戸（+6.5%）、分譲住宅 16,838 戸（+6.4%）となり主要 3 分野がすべて前年同月を上回った。**	**【造船】**　2026 年 8 月の国内新造船受注は 31 万総トン（前年同月比+2.2 倍）・手持ち工事量は 2026 年 8 月時点で 3,011 万総トン＝　3.6 年分。一方、人手不足や機器調達難、建造能力が制約。国内造船は旺盛な世界需要を背景に、政府が 2035 年の国内建造量を 900 万総トンから 1,800 万総トンへ倍増する目標を掲げ、設備増強・自動化の動きが進展。 ・造船業再生基金では、2026～2034 年度を対象に設備投資支援が進められており、建造能力増強が中長期的な厚板需要の下支え要因。 **【建築】**2025 年度鉄骨需要は 342 万トン（前年比▲6..5%）となっており、2026 年度も 340 万トン台周辺で推移すると推測している。データセンターや大型再開発案件が下支えするものの、建設コスト高騰や人手不足による中小案件の延期・見直しが続くと推測。 **【建機】**　2026 年度 8 月の建設機械出荷金額は、国内：760 億円、輸出：1,859 億円となり、国内外合計：2,619 億円と先月比+5.1%となった。 2026 年度は国内が減少する一方、輸出は北米・欧州を中心に一部機種で回復し、通年で前年度並みの 3 兆 733 億円（±0%）と予測。 **【産機】**　2026 年 7 月の産業機械受注実績は 6,314 億円で前年同月比+32.9%となった。特に外需：2,387 億円と前年同月比+95.6%となり、特にボイラ・原動機・運搬機械・金属加工機械が好調となった。	**2026 年 8 月の全建築物の着工床面積は 741 万㎡（前年同月比+0.8%）。内訳として公共建築主 24 万㎡（前年同月比▲3.8%）で 2 か月連続の減少、民間建築主 718 万㎡（同比+1.0%）で 4 か月連続の増加。** **新設住宅着工戸数は 63,974 戸（前年同月比+6.1%）、新設住宅着工床面積は 485.8 万㎡（同比+5.6%）、非住宅着工床面積は 214.5 万㎡（同比▲8.5%）で 3 か月ぶりの減少。** **建築着工統計に基づく換算鉄骨需要量は 2026 年 8 月単月で 23.6 万 t と前年同月比▲11.2%の減少。** **2026 年度第 3 四半期の鋼材需要量は 1,849 万 t の見通しで前年同期比 0.0%と横ばい、2026 年度第 2 四半期比+1.8%と微増の見通し。**
３．輸出入動向	**2026 年 8 月鋼管輸出量** **継目無鋼管：1 万 9,205 トン（前月比▲5.4%）** **溶鍛接鋼管：1 万 8,917 トン（前月比▲18.4%）** **2026 年 8 月鋼管輸入量** **継目無鋼管：　1,046 トン（前月比 +14.1%）** **溶鍛接鋼管：　7,010 トン（前月比 ▲43.4%）**	**2026 年 8 月度の普通鋼鋼材の輸出は 167.6 万トン、前年同月比 3.8%減でであった。品種別では、熱延広幅帯鋼：86.3 万トン、前年同月比△10.0%、冷延広幅帯鋼：9.5 万トンで△.8%。亜鉛めっき鋼板は 17.8 万トン、同+2.9%増 となった。2026 年 8 月の普通鋼鋼材輸入量は 29.9 万トンで、前年同月比 16.7%減となり 12 カ月連続の前年割れ。品種別では、熱延広幅帯鋼：8.9 万トン、前年同月比 16.2%減, 冷延広幅帯鋼：5.4 万トン、同 2.1%減 亜鉛め２っき鋼板：6.6 万トン、同 29.9%減, 厚板：3.5 万トン、同 1.9%減と、主要 4 品種がすべて前年割れとなった。**	**・国内造船向け輸入厚板の 2026 年 7 月通関実績は 22.5 千トン（前月比+2.9 千トン）。平均価格は 100.5 円/kg（前月比▲0.1 円/kg）となった。** **・2026 年 1～7 月の国内造船向け輸入厚板は月平均 21.1 千トン。** **2025 年平均の月 20.0 千トンを上回っている。** **国内造船向け輸入厚板は引き続き一定量流入しており、韓国材を中心に競争環境は継続。** **円安の影響もあり輸入材コストは高止まりしているが、供給ソースの多様化は進んでいる。**	**【2026 年 8 月の輸出入実績】** **輸出：** **【形鋼】41,516 t（前月比▲36.3%、前年同月比▲5.3%）** **【棒鋼】14,865 t（前月比▲48.8%、前年同月比+0.5%）** **輸入：** **【形鋼】10,017 t（前月比▲7.0%、前年同月比▲38.2%）** **【棒鋼】　22,716 t（前月比+49.5%、前年同月比+36.8%）**

発表項目＼発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	ＪＦＥ商事	日鉄物産
4．海外市場動向	原油価格 2026 年 9 月平均 WTI は 96.90 ドル/バレルと前月比+17%。中東情勢を巡る緊張が一段と高まり、原油供給の正常化が遠のくとの見方もあり、直近は 90 ドル台/バレルで推移している。米国リグカウント数は 456 基と低位で推移。（1987 年から 2025 年までの平均が 500 基で、2014 年 10 月の 1,609 基がピーク、1999 年 8 月の 98 基が最低記録）	**中国国内需要は，不動産不況の深刻化やインフラ整備の低調を背景に、建設用鋼材需要が大きく減少しています。また鋼板についても、自動車需要などが振るわず、製鉄所内・市中ともに在庫が積み上がっており、東南アジア諸国への輸出増とならないか注視が必要。**	・中国では不動産需要の低迷が続き、鋼材在庫は高水準。 中国不動産市場の低迷は継続しており、中国鋼材市況は依然として軟調。 一方、中国政府による景気刺激策やインフラ投資動向には注視が必要。 ・ 世界の新造船需要は高水準を維持しており、造船向け厚板需要は中長期的には堅調と見られる。	米国はインフレ高止まりへの懸念はあるものの、堅調な雇用情勢、個人消費等により、景気は底堅さを維持している。中国は輸出依存、不動産開発・インフラ投資や個人消費など内需の停滞が続いている中、政府は内需改善のための追加の景気対策の可能性を示唆している。**2026 年 8 月の世界粗鋼生産量は前年同月比▲1.2%の 1 億 4,420 万 t と 2 カ月連続の減少。**中国が生産調整により同比▲3.7%減少したが、依然不透明な中東情勢の行方やインフレ圧力の高まり、高水準が続く中国の鋼材輸出等のリスクが想定されるため、引き続き動向を注視する必要がある。
5．トピックス		国内市場は、AD 発動が奏効し、GI 及び CR などの安値輸入材は,ほぼなくなりつつあり、GI を筆頭に底値が急激にあがってきております。一方、国内内需につきましては、エアコンなどの一部家電製品及び半導体関連企業群向けの商材全般など、好調な分野もありますが、全般的には、需要は弱く、本格的な需給改善にはまだ、時間がかかると予想します。また、ベトナムなどの非 AD 対象国からの輸入材も散見されはじめて来ております。流通としては、適正な市場形成を心かけて、内需の盛り上がりを期待する状況です。		

※ゴシック太字部分は既に公表している箇所

鉄鋼流通問題懇談会（２０２６年10月）

発表者 / 発表項目	メーカー ＪＦＥスチール
１．需給動向（景況感）	・9月の日銀短観では、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）の大企業・製造業の指数が、前回（7月）調査比+2の+24と、良化した形となった。先行きは▲3の+21と、慎重な見通しとなっている。 ・家計部門では、8月の小売業販売額が前年同月比2.7%と6ヵ月連続の増。総消費動向指数は0.5%と25ヵ月連続の上昇。 ・製造部門では、8月の四輪車生産が前年同月比▲4.9%と3ヵ月ぶりの減少。7月機械受注（民需）は前月▲3.7%と2か月ぶりの減。 ・建築部門では、8月の全建築物建築着工床面積が741万㎡（前年同月比0.8%）となり、4か月連続の増。 （海外）　AI関連投資の拡大による需要増加が世界経済を下支えする一方、エネルギー価格動向や地政学リスクについては継続注視が必要。 米国　：　AI関連投資や底堅い個人消費が成長に寄与も、財政赤字・政府債務の拡大や長期金利上昇は懸念要素。 欧州　：　財政・金融面の支援はあるものの、エネルギー価格の影響やテクノロジー分野の恩恵が限定的で、成長は緩やかにとどまる。 中国　：　輸出やハイテク、政策支援が景気を支える一方、不動産不振や内需低迷等が重石となり、中期的に成長率は緩やかに低下する見通し。 ＜国内鉄鋼需給＞ （生産）　・8月の粗鋼生産（速報）は前年同月比0.5%増の665万トンで5ヵ月連続の増。 （出荷）　・8月の普通鋼国内向け出荷は前年同月比2.8%増の252万トンで3ヵ月連続の増。 （在庫）　・8月末の普通鋼鋼材国内在庫は510万トンと前月末比3ヵ月ぶりでの増加。 ・8月末の薄板３品在庫は405万トン（前年同月比＋16万トン）で4ヵ月ぶりの増。 ・8月末の厚板シャー在庫は34万トン（前年同月比▲0.3万トン）で4ヵ月連続の減。
２．需要産業動向	〔建　築〕・8月の新設住宅着工戸数6.4万戸（前年同月比6.1%）で5ヵ月連続の増。持家・貸家・分譲いずれも増。 ・8月の非住宅着工床面積は233万㎡（前年同月比▲9.5%）で3ヵ月ぶりの減。使途別では、事務所で増、店舗・工場・倉庫で減。 〔自動車〕・9月の国内販売(輸入車除く)は38.9万台（前年同月比0.4%）で2ヵ月ぶりの増。 ・8月の完成車輸出は29.6万台（前年同月比▲0.7%）で3ヵ月ぶりの減。 ・8月の四輪車生産は50.9万台（前年同月比▲4.9%）で3ヵ月ぶりの減。 〔造　船〕・8月の造船受注量は31.8万ＧＴ（前年同月比▲14.4%）。手持工事量は3,012万ＧＴ（前月末比0.7%増）。
３．輸出入動向	〔輸　出〕・8月の全鉄鋼輸出は247万トン（前年同月比0.3%）で2ヵ月ぶりの増。向先別では、韓・台・米・墨向け増、中・ASEAN向けで減。 〔輸　入〕・8月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は29.9万トン（前年同月比▲16.7%）で12ヵ月連続の減。
４．海外市場動向	・8月の世界粗鋼生産（推計含む）は1億4,420万トン（前年同月比▲1.2%）で2ヵ月連続の減。 ・8月の中国粗鋼生産（速報）は7,461万トン（前年同月比▲3.7%）で2ヵ月連続の減。 ・8月の中国鋼材輸出（速報）は1,049万トン（前年同月比0.3%）で4ヵ月連続の増。 ・中国市中在庫は、10月16日時点で1,083万ﾄﾝ（前年同期比▲3.7%）。在庫は減少傾向。